

高岡ロータリークラブ



2026/2/12

会長／牧野 明 幹事／坪田 伊歩

No.30

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 安田 会場監督 点鐘 牧野 会長
国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト
ゲスト

富山国際大学 子ども育成学部教授 彼谷環様

会長報告

■誕生祝

駒井 宏さん (2/16・71才)

幹事報告

■配布／卓上にロータリーの友 2月号

委員会報告

■ロータリーの友 2月号紹介 (竹田会員)

＜ ニコニコBOX 9件 36,000円 ＞

牧野会長／本日は彼谷環様、高岡ロータリーへようこそ。卓話よろしくお願いたします。

中野副会長／本日の卓話、富山国際大学 彼谷様よろしくお願いたします。駒井さん誕生祝おめでとう。

木村君／富山国際大学 彼谷環先生、卓話楽しみにしています。よろしくお願いたします。

松原君／イタリア冬季五輪にヨネックス社を通じて雪に強い当社製品 (フィルム・インキ・塗料) が日本選手だけでなくメダリストに使用されて喜びを感じています。

四津谷君／今年、息子が駒澤大学を卒業し 大本山 総持寺に修行に行きます。一度は不登校になりどうなるかと思いましたが、結果として家業をついでくれそうです。将に雨降って地固まるです。俗に「三際代で家を潰す」と言います。瑞龍寺は四津谷家の血縁で私で三代目という危機。世襲は批判されますが、血族であれ何であれ、きちんと守っていけば良いだけの話です。勝興寺様も代替わり土山家の血筋で繋げていくんでしょうね。因みに前田家も徳川家も今年十九代目です。来年の利長シンポジウムはその徳川家広様を講演でお迎えできないかと思案中です。乞うご期待！

炭谷君／先日、NHK の歴史探偵にご出演されている歴史作家の河合教授にご講演いただく機会がありました。加藤さんのご助言もいただき、瑞龍寺に拝観し急なことでしたが、四津谷住職ともご面談いただくことができ、良いアテンドができました。お二人に感謝です。また、2月10日幣行元頭取の八嶋氏

の「お別れの会」に多くの皆様にご臨席いただき、ありがとうございました

杉林君／1月29日 (木) に子供が生まれました。ただただ嬉しいです。奥様に感謝。しばらくオムツ替えを頑張ります。

駒井君／誕生祝いただきまして有難うございます。

才高君／皆出席いただきまして。

プログラム

卓話

『 学生とつくる「ジェンダー論」
～世界・日本、そして自分を見つめる時間～ 』

富山国際大学 子ども育成学部
彼谷 環 教授

富山国際大学子ども育成学部の彼谷環と申します。本日は、歴史ある高岡ロータリークラブの通常例会にお招きいただき、ありがとうございます。

「学生とつくるジェンダー論～世界・日本、自分を見つめる時間～」と題して、お話をさせていただくのですが、なぜ、このようなタイトルをつけたのかと言いますと、「ジェンダー」について考えることは、単に男女平等の実現を目指すだけでなく、最終的には、自己と他者の人権を尊重する社会をつくることにつながる、そのためのステップとして、自分の意識や価値観に向きあう作業が必要になります。大学で、かれこれ10年「ジェンダー論」という科目を担当してきましたが、最近、学生の意識の変化を感じることも多くあります。本日は、そうした点をご紹介しつつ、皆さまの新採活動にもご参考になればと思います。

私は、1966 (昭和 41) 年生まれの「丙午」で、今年が還暦の年女です。富山国際大学には平成 8 (1996) 年に着任したので、今年で 30 年になります。現在所属する子ども育成学部は、富山市願海寺の呉羽キャンパスにあり、学生たちの多くは、将来、小学校教員や幼稚園教諭、保育士、社会福祉士を目指しています。近年は、1～2割の学生が民間企業を希望するようになってきました。学生たちは、世間では「Z世代」と呼ばれ、中学から高校にかけてコロナ禍でステイホームを強いられ

た世代です。ネットやスマホからの情報収集が得意で、SNSに自らが発信していますが、反面、他人からの目を気にし、ナイーブな学生も多いという印象です。

本学で開講している「ジェンダー論」は、コロナ禍でスタンダードになったオンライン授業を採用しています。その理由は、私が所属する呉羽キャンパスから25km離れた東黒牧キャンパスの学生も履修できるようになっているからです。今年は、富山国際大学が連携協定を結んでいる札幌国際大学、前橋国際大学、宮崎国際大学の学生たちも受講してくれています。

現代のこども・若者事情

まず、現代のこども・若者をとりまく状況を簡単に捉えておきたいと思います。

3年前のデータですが、2023年度の小中高校、特別支援学校におけるいじめの認知件数は、73万2568件で前年比7%増となっています。このうち、児童生徒の生命・心身・財産に重大な被害が生じた疑いがある重大事態は、前年比42%増の1306件。そして、ネットいじめの2万4678件は過去最多、暴力行為の発生件数は学年が上がるほど増加しています。また、近年深刻化しているのが、親やきょうだいの世話をしなければならないヤングケアラーの存在です。富山県で3年前に行われた実態調査（中学2年生と高校2年生が対象）では、中学で5.5%、高校で4.2%が、世話をしている家族が「いる」と回答しています。

「令和5年度福祉行政報告例」によると、「親密圏」と呼ばれる親しい間柄で生じている問題も多いことがわかります。たとえば、親による暴力については、0～17歳までの子どもに関する相談や通告を受けた数は、合計22万5千件強。とくに、心理的虐待、身体的虐待は前年度比5%増。心理的虐待のなかには、親のDVを目の前で見たという「面前DV」の数が格段に増えています。そして性暴力も深刻な状況となっています。

DVについて、警視庁の情報をご紹介しますと、コロナ禍の2021（令和3）年を除き増加の一途を辿っており、富山県も2024（令和6）年には517件となっています。DV相談者の性別の内訳をみると、男性からの相談も増えています。DVの原因は、力でパートナーを支配しようとする心理や価値観であり、問題解決の方法として暴力を用いてきた家庭では、子どももその方法しか知らないということが指摘されています。高岡市内の被害者支援団体代表者のお話をお聞きした際、「自分たちにできることはないか」とボランティアを希望する学生の声も聞かれました。

「ジェンダー平等」ってなに？

ジェンダーとは「文化的、歴史的につくられた男らしさ、女らしさ」という説明がなされますが、最近、男女共同参画局のHPは次のように定義するようになってきました。「ひとりひとりの人間が、性別にかかわらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができること」。つまり、単なる「男

女平等」にとどまらず、人権の尊重と機会均等、役割の固定化の解消、そして、無意識の偏見を取り除くことが目指されています。

ところで、授業では最初に、次のアクティビティに挑戦してもらっています。ある男性と息子、そして、息子が運び込まれる病院の外科医の3人が登場するエピソードを読んで、3人の関係を考えてみるというものです。外科医は、「これは私の息子！」と叫んでいます。息子と外科医はどのような関係にあるのでしょうか。

10年前、学生たちの多くは、「外科医は息子の本当の（生き別れた）父親」という回答が最も多かったのですが、最近では、「男性カップルとその間で育った子ども」というものもあります。このアクティビティのねらいは、「外科医は息子の母親」、つまり、女性が外科医であるという発想ができるか、医者とは男性の仕事という思い込みをしていないかというものです。

このような「無意識の思い込み」のことを、アンコンシャス・バイアスと言います。私たちが人権にセンシティブになるためにも、自身の「無意識の思い込み」を手放すことが重要になってきます。なぜなら、「無意識の思い込み」は、私たちが意図する／しないに関わらず、言葉や行動を通して、相手を差別したり侮辱したりする場合があります。それを「マイクロ・アグレッション（小さな攻撃性）」と呼びます。

世界の状況と日本の動向

ILGA World Databaseという国際機関は、同性間の関係について、寛容な態度を示す国と、厳しい処罰を科す国の違いを色分けした世界地図を発表しています。外務省のHPにも、海外旅行をする際の情報として掲載されています。厳しい処罰を科す国から助けを求め非難してくる人がいることも、学生にとっては衝撃的な事実のようです。

世界のジェンダー平等を目指す動きのなかには、女子教育の促進もあります。2024（令和6）年に公表されたユネスコの報告では、学校に通えない世界の15～17歳の子どもは、1億300万人。地域により異なる事情があるが、アフリカや南アジアの国々では、児童婚も多くみられます。特に児童婚については、家計を助けるために家畜と引き換えにされたり、結婚後は暴力や虐待の被害に遭ったり、また、若くして出産・妊娠を強いられるため妊産婦の死亡率が高いというデータもあります。

次に、世界経済フォーラムが発表する2025年「ジェンダー・ギャップ指数」（GGI）を見てみましょう。日本の総合順位は前年と同じ118位ですが、政治分野の順位がさらに後退しています。GGIの指標は、経済参画、教育、健康、政治参画の4つで、大きな正方形が理想の形です。15年連続1位のアイスランドは、大きな正方形ですが、日本は政治参画が低いため三角形にしか見えません。

世界国別の比較にならない、日本の47都道府県のジェンダー・ギャップ指数を「見える化」したものが、内閣

府のサイトにアップされています。政治学者の三浦まり上智大教授が監修していますが、2025年度、富山県は行政13位、教育2位、経済28位、政治45位です。教育分野2位の根拠は、4年生大学進学率の男女差が小さいこと、校長や教頭に女性が多いことが影響しています。そして注目すべきは、やはり政治分野です。議会における男女の構成が変わることで、ジェンダーに配慮した議会が進み、これまで多くの女性が担ってきた育児や介護（＝ケア労働）の見直しが、議会の関心事項になる可能性も出てきます。

反響の大きかったテーマ

ところで、「ジェンダー論」を履修する学生は、開講以来、男子の方が多いという傾向があります。純粋に関心があるだけでなく、期待をかけられ息苦しさを感じているという感想や意見もよくあります。今年最終回の授業では、「男性からのジェンダー平等」をテーマにしたのですが、かなり反響がありました。

具体的には、①経済産業省トイレ事件（2023（令和5）年7月11日最高裁判決）、②所得税法の配偶者控除制度、③外貌醜状事件（2010（平成22）年京都地裁判決）を取り上げました。特に③は、「女性の顔の傷は逸失利益が大きい（労働能力喪失の可能性が高い）」、反対に「男性は低い」という差別的な基準が問題となった事件です。しかし、障害を負った本人が受ける精神的苦痛や就労機会の制約の程度が、男性に比べて女性の方が大きいという社会通念があることに合理的根拠がないとして、その後、法改正も行われます。最近では、性に関係なく、美しさを追及する時代になっていますので、学生たちからは、「そんな法律上の差別があったなんて！」と驚く声が聞かれました。

「多様な個性」が認められる社会へ

大学の授業を通して、学生たちは、現代社会が抱える様々な課題に向き合うとともに、自身が抱える「無意識の思い込み」を認識する機会を得ています。本学で学ぶ学生たちだけでなく、次世代を生きる子どもたち一人ひとりが、それぞれの個性を輝かせることができるような制度・仕組みづくりを考えていくことが、これからのまちづくりにも必要になってくると考えています。

